

浜田市議会議長 原田 義則 様

議員名 岡本 正友



調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 平成27年5月20日(水)～5月21日(木)

2. 視察先と内容

① 広島市安佐南区 広島市立祇園東中学校
「生徒の自主性を育てる学びの拠点の環境作りについて」
講師 升原 一昭 校長

② 高知県高岡郡越知町 越知中学校
「飛躍的な学力向上への取り組みについて」
講師 渡辺 哲夫 校長

3. 参加者 佐々木 豊治 岡本 正友 上野 茂 柳楽 真知子
岡野克俊 野藤 薫(①のみ参加)

4. 調査経費 14,152円

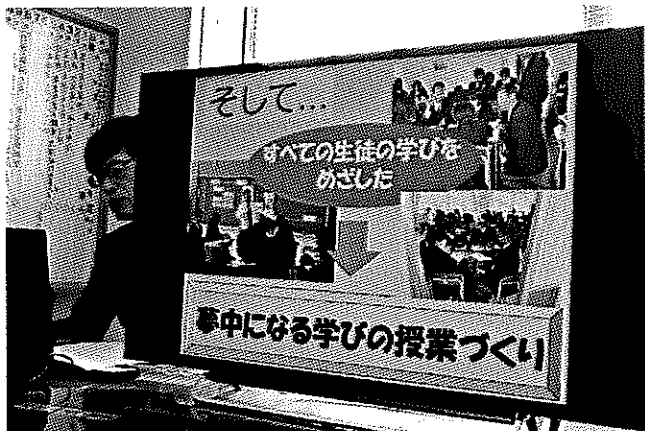
5. 調査研究活動の概要 別紙



① 祇園東中学校

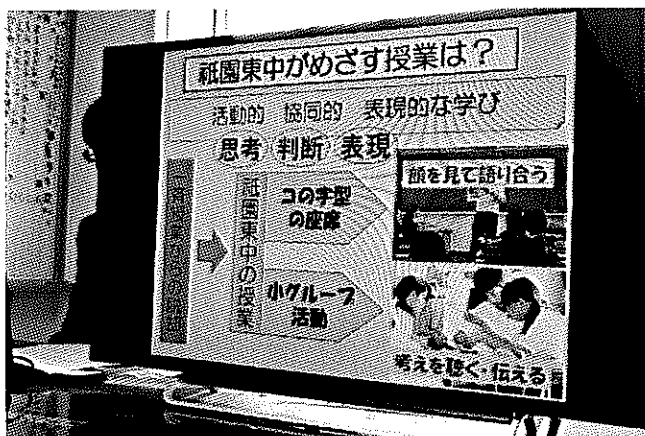
「生徒の自主性を育てる学びの拠点の環境作り」への取り組みについて

- 本校の教職員の目標！「学びの授業を作る」これに尽きる。
- 現在、全校生徒は659名、各学年6クラスから7クラスの編成
- 学校はアストラムライン沿線に有り西原駅から数分の利便性がある。
広島市内では珍しい自校方式の給食が魅力になっている。
安佐南区は校区選択性をとっており、祇園東中は一学年35名の枠を設定、ことしは77名の応募。
- 昨年度全教室エアコンが完備された。
- 周辺は広島市への通勤の為の開発がおこなわれ、10年前には暴走族の拠点にもなっていて、学校も荒れていた。(授業中の徘徊、異装、髪染めなど)
- 子供たちへの声掛けや授業の改善で、学校を変えようと当時の校長が提案、静岡県富士市の岳陽中学へ視察、その授業実践に感動！祇園東中も実施へ。
- 学校教育目標は「自立 実行 友愛」社会に出た時に自立して生活できる事を目指す。
- 挨拶を積極的に出来るように取り組む。
- 「活動的で協同的で表現的な学び」教師は、夢中になる学び作りを目指す。
- 言語活動を既定に据えた、教室での「コの字型」授業。



- 考えを聞く、話し合う、学びあいを促進する小グループの授業
- 教員の授業研究を促進し、教科書をベースに発展的な授業が出来るよう、教師は授業公開を年一回は実施する。
- 時間を守る。時計を見る。自主的に行動できるよう、テスト以外はノーチャイムを実施。
- 子供たちの観察、発達障害の早期発見、保護者との連携。
- 3年生のQUテスト、自己肯定感は3年生で78%

- 進学率第一志望達成率は84%
- 課題もある。平成26年度、不登校6、暴力行為1、いじめ0、携帯電話等1
- 学校は、事が起きた時の対応が大切、組織としてすぐ動く、まず話を聞く。
- 公園は幼児、小学生向け、生徒たちが、外で思い切り遊ぶ所が無い。
- 部活動、地域のクラブへ加入、ユースチームに入り海外へ研修に行く子供もいる。



Q：学校経営で教育委員会から指導は有るのか？

A：かつて広島県では、是正指導があった。（文科省→県教委→市教委）

学校経営、国歌斉唱、国旗掲揚などで有った。教育は基本法や指導要領に沿って行う。
各種教育施策もその法に沿ったものでないといけない。

Q：部活動の対応は？

A：教員ではすべて指導できない。地域ボランティア（数名謝金が出る）へお願いしい地域クラブへ通う子供は親が謝金を払っている。

Q：授業はすべてコの字、小グループなのか？

A：子供の学びで別の形（保健体育など）は取る。

Q：先生方によって教え方など違うのでは？

A：授業研究を通して先生の技量を上げていく。

【所 感】

広島市安佐南区の都市部に位置する祇園東は、かつて同和問題のトラブルから当時の学校長が自死した話や、暴走族の拠点にもなり、荒れた中学校として世間を騒がせた学校であるが、この度、定年退職された中学校長から、この中学校が今では、大きく様を変わりして、学力向上や生徒指導など、教師間においても注目されるほどで、視察の価値があるものと紹介を受け、訪問を行わせて頂いた。

説明をされる校長先生は、以前は教頭として赴任したことがあり、本年度からは校長に昇任して、その学校経営を踏襲されていると同ったが、訪問をしての印象として、非常に生徒の挨拶が良く、授業態度も落ち着いていると感じたところである。また、各自先生方の取り組みなどその熱心さが伺えることができた。

学力アップで注目すべき1点目に、各学級に大型モニターが有り、パワーポイント授業がある。

（授業・資料の作成一考えを聞く、話し合う、学び合いを促進する小グループの授業）

2点目に、コの字や小グループの授業体形だが、先生の目が行き届いている。（先生の位置）

3点目に、男女比が同数に配慮され、話し合いもスムーズにできる配置。（席の配置）

4点目に、教師同士が互いに切磋琢磨し「学びの授業を作る」取り組みの推進。

（教員の授業研究を促進し、教科書をベースに発展的な授業が出来るよう、教師は授業公開を年一回は実施する。）

5点目に、時間を守る。時計を見る。自主的に行動できるよう、テスト以外ノーチャイムを実施。

このような取り組みを通して、何の為に学ぶのか？と言う事を子供達に自覚され、学ぶ事に意欲を持たせ、人として成長させるためには、学校の教育目標や授業学習の形態先生方の授業研究など、また子供たちの観察発達障害の早期発見、保護者との連携など積極的に行うなど、その取り組みは、大いに参考になるものであった。また給食の形態においても、広島市全体ではセンター方式が少なく、デリバリー方式が多い状況のなかで、この中学校では、自校方式を採用されており、温かいものが出せるなど、生徒や保護者には好評で、同校の特色としてあげられる。

② 高知県越知町立落ち中学校の取り組み概要

「学力向上」への取り組みについて

- 高知県中央の山間部、清流日本一の仁淀川に臨む越知中学校は5年前から学力向上の取組を進めている。
- 学校のモットーは「個人の能力差、家庭や地域の能力差、教員の経験や力量の差によって学力差を生まない」ことで、校長を中心としたサポートや評価体制の下で学校が一丸となり、授業づくりを進めている。
- 同校がまず取り組んだのは、「教師が子どもと向き合う時間を増やす」ための教務改革で、役割分担を徹底し職員会議の縮減や学校行事の効率化を図り、年間100時間の授業時間増をめざした。次に学力向上の肝となる授業改革では、「考える力」を伸ばすため、生徒同士が考え方を共有できる班活動や発表を積極的に取り入れた。
- 授業は①課題の提示②自力解決③班活動・情報の共有④振り返り で構成されており、それぞれの項目は細かく時間配分され、グループワークや振り返りの時間を十分に確保する授業づくりが進められている。
- 定期試験の出題形式や難易度を統一し、理解度を数値で分析できるようにした結果、他教科との比較も可能となり、教員同士が刺激し合う効果も生まれている。「点数が低いのは生徒のせいではなく指導のせい」とされ、まず教員にその意識を持たせた。
- 同校は2010年度までの全国学力テストでは、全国平均を下回る結果が続いていたが13年度の3年生の結果は国語、数学とも急上昇し、特に数学Bでは30ポイント以上も上昇している。

校長先生からの聞き取りから

- 全国学力テストの結果は全国平均を下回り、平成24年に赴任して来たときには「学力が低い」と感じた。小学校も低かった。現在はすべて100を上回る。
- 越知町は昔は飲み屋街と遊郭の町だった。その基盤があったため、荒れた環境にあった。
- 子どもたちを変えることに取組を始めた。
- 地域の方々も学校が町の誇りと言っておられる。
- 小中一貫、連携校の難しさはあるが、カリキュラムをいかにつくるか、教職員の意識改革が重要な視点。中高より小中が難しい。
- 東北以外のすべての地域を勉強に行ったが、小中連携は意識されてない。
- 小学校の教育に尽きる。発達段階における学力をつける。
- 本当の意味で、小中一体になるとはそれぞれを無理にすり合わせるのではなくて、小学校でやるべきことをきっちりやるシステムが大切。
- 平成24年4月に赴任してきた当時の課題は保護者や地域が学校に期待していないことだった。学校が地域の思いを理解していない。
- 組織的な公務ができていない。責任ある仕事の仕方を教職員がわかっていない。学力をつけることをしていない。教育公務員であり越知町の職員として町のために貢献する意識がない。他



の教科や仕事には口出ししない。

- 学力や部活は地域の誇りにするしできて当たり前。小規模集落がたくさんあるので、地域に貢献する生徒を育てる。学校行事を地域や保護者が楽しみに。学力向上のために学校行事などは削減しない。越知町で受けられる教育を受けることをうりにしていこう。子どもたちに非行など問題が無いのは環境が良いからではなく、危機管理を徹底してやっているから。県内外からの視察が多く、地域の人が越知町を誇りに感じ始めた。
- 先生方がしなくてはいけないことは、生徒の人格を豊かにし、世の中を生きていく社会的能力を高め、将来に対応できる学力・能力を育てることであり、教科書に書いてあることを切り売りすることではない。教科書に書いてあることを子どもたちに身につけさせるのは当たり前で、そこに書いてないけれども生活の中で使える能力をみがくこと。学習指導要領にも明記されていない。
- 越知町はほっておけば無くなってしまいう地域。地域を豊かにするために学校として子どもたちをどう育てるか。町民の願いに敏感になる、どう子どもたちに結実させていくか。神輿も担げないので中学生が担ぐ。
- 当たり前によればきちんと結果はついてくる。一生懸命やったけど子どもたちに学力がつかなかったのはうそ。教育ぐらい如実に成果がでるものはない。
- 公務員的な体質をいかに払拭するか。教科担当が、責任をもって教科の学力を保障するため、他の先生の力を取り入れ組織を動かし利用する。オープンにし隠さない。失敗は良いが失敗を隠すことはだめ。責任をとる。チャレンジには失敗も多い。結果を出さない仕事は仕事ではない。出るように仕事をする。
- 校長として各先生方に求める公務は「正しく目標を設定する能力」「目標の達成を見届けること」「先生方や良い手本となってほしい」
- 県で自己目標シートをつくっており、勤務評定につながり、給与の上がり方も変わってくる。
- 自分でたてる目標が3つある。ひとつは教育能力で教育の専門家として、各教科で活用能力を育てるためにどのように目標設定し取組むか。組織構造能力として組織が円滑に公務を遂行し効果をあげるために、どのように人間関係を築くのか。ヒステリックな人、協調性のない人が効率を下げる。職務能力として効率的に公務を遂行するため、どのように分掌業務を行うのか。職員会を基本的にしない。全体の校務を見て工夫する。
- 学力をつけるのなら、学力をつけるだけの策をうたないとつかない。
学力を育てるための策。3年前に赴任してきたときは極めて学力が低かった。家庭学習だけで、一定の基礎がづくだけの宿題を出し続けなくてはならない。授業の中身はアクティブランニング（課題解決学習）で行うが、定期考査を先生の育成に使う。
- 定期考査は基礎的内容70%、活用的内容30%で作成する。通知表に7以下の成績がついている生徒はいない。
- 定期考査問題は学期当初に作成し、内容を生徒保護者に周知する。
- 宿題は毎日課題として英・数・国は毎日だされ、毎週課題として理・社は週末にだされるが、外部の人（2人）に宿題のまる付けを行ってもらい、出題問題に対する意見も出る。
- 定期考査のシステムが学力をつけるためのシステム。定期テストを受けさせる以上、力をつけてから受けさせる。
- 成績が上がったとき、一番喜んだのは先生。先生型は充実感や達成感があり、疲労感はない。教育長は最後の最後まであがいたものが結果をだす。あきらめたものため。県内の多くの学校は視察に来るが結果がでないとなげく。それは管理職が達成するまで見届けるかどうか。

【所 感】

高知県中央の山間部にある越知中学校は、学力向上に取り組みの成功事例から、全国各地から多くの視察があるとの報道の情報から、我々もこの学校の視察を試みることにした。

この学校は「個人の能力差や、家庭や地域の能力差、教員の経験や力量の差によって学力差を生まない」をモットーに、サポートや評価体制の下で学校が一丸となり、授業づくりを進め、2010年度までの全国学力テストでは、全国平均を下回る結果が続いていたが13年度の3年生の結果は国語、数学とも急上昇し、特に数学Bでは30ポイント以上も上昇している状況など結果を出している。

この学校がはじめに取り組んだことは、「教師が子どもと向き合う時間を増やす」ための教務改革で、役割分担を徹底し、職員会議の縮減や学校行事の効率化を図りなど、年間100時間の授業時間増を目指したこと。

次に学力向上の肝となる授業改革では、「考える力」を伸ばすため、生徒同士が考え方を共有できる班活動や発表を積極的に取り入れ、授業は①課題の提示②自力解決③班活動・情報の共有④振り返りで構成し、それぞれの項目は細かく時間配分、グループワークや振り返りの時間を十分に確保する授業づくりが進められていることである。

また定期試験の出題形式や難易度を統一し、理解度を数値で分析できるようにした結果、他教科との比較も可能となり、教員同士が刺激し合う効果も生まれた事であり、あわせて「点数が低いのは生徒のせいではなく指導のせい」として、まず教員にその意識を持たせた事である。

現校長が平成24年に赴任してきた当時は、保護者や地域が学校に期待していないことや、学校が地域の思いを理解していないなどのほか責任ある仕事の仕方を教職員がわかっていない学力をつけることをしていないなど、教育公務員であり越知町の職員として町のために貢献する意識がないと感じたそうである。

小規模集落がたくさんあるなかで、地域に貢献する生徒を育てることが大切である。

学校行事を地域や保護者が楽しみにしているが、学力向上のために学校行事などは削減しないことにして、越知町で受けられる教育を受けることをうりにしていこう気概を持って経営を行って来られたことである。

現在子どもたちに非行など問題が無いのは、環境が良いからではなく、危機管理を徹底してやっているからである。

そして先生方がしなくてはいけないことは、生徒の人格を豊かにし、世の中を生きていく社会的能力を高め、将来に対応できる学力・能力を育てることであり、教科書に書いてあることを子どもたちに身につけさせるのは当たり前で、学習指導要領にも明記されていないし、そこに書いてないけれども、生活の中で使える能力をみがくことが重要であると信念を述べられた。

今後、越知町はほっておけば無くなってしまいう地域あり、地域を豊かにするために学校として、子どもたちをどう育てるかについて町民の願いに敏感になって、どう結実させていくかは、大きな課題である。

一生懸命やったけど子どもたちに学力がつかなかったのはうそであり、教育ぐらい如実に成果ができるものはないと考えるし、公務員的な体質をいかに払拭するか、教科担当が、責任をもって教科の学力を保障するため、他の先生の力を取り入れ組織を動かし利用を図る為には、失敗は良いが失敗をオープンにすることであり、その責任を持たせることである。結果を出さない仕事は仕事ではないと考えている。チャレンジには失敗もともなうが、しかし結果の出る仕事をして行く信念が必要である。

校長として各先生方に求める公務は「正しく目標を設定する能力」「目標の達成を見届けること」「先生方や良い手本となってほしい」県で自己目標シートをつくって

おり、勤務評定につながり、給与の上がり方も変わってくる。

自分でたてる目標が3つある。一つ目は教育能力で教育の専門家として、各教科で活用能力を育てるためにどのように目標設定し取り組むか。

二つ目に組織構造能力として組織が円滑に公務を遂行し効果をあげるために、どのように人間関係を築くのか。

三つ目にヒステリックな人、協調性のない人が効率を下げる。職務能力として効率的に公務を遂行するため、どのように分掌業務を行うのか。

職員会を基本的にしないで、全体の校務を見て工夫し、学力をつけるためなら、学力をつけるための策をうたないと実力はつかないと思っている。

3年前に赴任してきたときは極めて学力が低かったので、学力を育てるための策として、家庭学習だけで、一定の基礎がつくだけの宿題を出し続けなくてはならないと考えた。そして、授業の中身はアクティブラーニング（課題解決学習）で行うが、定期考査を先生の育成に使うことにして、定期考査は基礎的内容70%、活用的内容30%で作成した。その結果、現在は通知表に7以下の成績がついている生徒はいない状況である。

定期考査問題は学期当初に作成し、内容を生徒保護者に周知している。宿題は毎日の課題として英・数・国が出され、毎週課題として理・社は週末にだしているが、その際、外部の人（2人）に宿題のまる付けを行ってもらい、出題問題に対する意見も求めている。

定期考査のシステムが学力をつけるためのシステムであり、定期テストを受けさせる以上、力をつけさせてから受けさせるように努めなければならないと考えている。

その成績が上がって、一番喜んだのは先生で、充実感や達成感があり、疲労感はないと言っている。

教育は、最後の最後まであがいたものが結果として表れ、あきらめたものだめと思っている。

県内の多くの学校は視察に来るが結果がでないとなげく。それは管理職が達成するまで見届けるかどうかにあると考えている。

私は、荒れた中学校を経験しているPTAの1人である。

中学校3年生の授業参観で、小学校4年生程度の分数の授業が展開されたことに、対して、愕然とさせられた経験を持っている。

当時の荒ぶ学校の環境は、学力の低下に、大きく影響を及ぼしていると感じさせられた私は、何とかしなければという思いから、その後積極的にPTA活動に参加して、本来の中学校の環境を取りもどすために、改善に向け関わりを持って行った。

その後、時短に端を発した週5日制の学校教育制度は、益々学力低下をさせるところになっていったと思っている。豊かさの時代のながれは、親である保護者の権利の形が変化し、本来両輪として果たさなければならない義務が、いつの間にか置き忘れた形となってしまったといえる状況であり、そして個人情報保護の誤った解釈のとらえた方が、さらに拍車をかける状態となって、歪な個人主義が集団の人間関係や権利を阻害するなど、そのひずみが教育を大いに病める形態になっていると思っている。

私は、次世代の人間改革は、教育に求めたいと思っている。越知中学校長の意見にもあるが、基礎学力をつける上で大事な時期は、小学校の教育に尽きることにしている。

発達段階における学力はしっかり身につけることが大事であるとしている点である。教育改革の本当の意味で、小中一体になるとはそれぞれを無理にすり合わせるのではなくて、小学校でやるべきことをきっちりやるシステムが大切であると認識すべきであり、実践実行を行うべきであると述べている。私はこの意見に同感であり、教育行政に対し、意識改革を図るために、この取り組み提案をしたいと考えている。